

東日本大震災や阪神大震災など過去の大災害の記憶や教訓を伝え続ける「語り部活動」の団体が集まり、今後の課題などを話し合うフォーラムが29日に宮城県南三陸町で開かれる。「10年、100年、1000年先へ届け」と題し、海外への情報発信などをテーマに話し合う。

同町の南三陸ホテル観洋で開催する。宮城県や岩手県の語り部団体に加え、津波で破損した日用

防災知識や経験 海外発信を議論

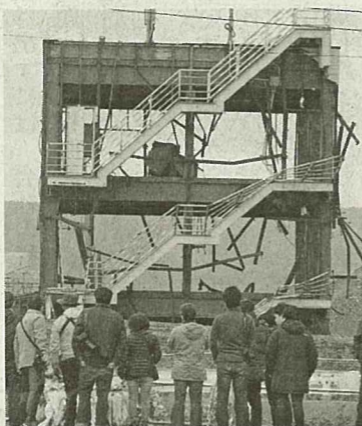
品や建物の一部などを展（市）、阪神大震災の記録品や建物の一部などを展示しているリアス・アーを保存する北淡震災記念公園（兵庫県淡路市）な

「KATARRIBE（語り部）・世界へ」のタイトルで分科会を設置し、日本が得た防災の知識や経験を海外に伝える際に必要なことなどを外国人研究者らが発表することも計画している。

合は3000円が必要と定だ。関係者も参加する予定だ。29日や30日にはホテル観洋が運行し、従業員らが震災当時の経験を話しながら防災対策庁舎などの震災遺構を回る。被災地「語り部バス」にも乗車できる。同ホテルは遠方からの参加者のため、相部屋の特別宿泊プランも用意する。

「語り部」団体 29日、南三陸でフォーラム

さらには2020年の東京五輪・パラリンピックを控え、今後は外国人の来日が増える。被災地に足を運ぶ人も一定割合いるだろう。英語などで解説できる人材の育成や、外国人に理解しやすい資料作りも一段と重要になる。多くの語り部団体が集まり、改善点を見つけあうことの意義は大きい。



代表的な震災遺構である宮城県南三陸町の防災対策庁舎（2016年11月14日）

参加費は無料で定員は150人。夕方には交流会も実施し、参加する場

東日本大震災で発生した津波の威力が目に見える形で残る震災遺構は、老朽化による取り壊しなどで徐々に少なくなっている。記憶を伝える活動は難しくなる一方だ。さらには2020年の東京五輪・パラリンピックを控え、今後は外国人の来日が増える。被災地に足を運ぶ人も一定割合いるだろう。英語などで解説できる人材の育成や、外国人に理解しやすい資料作りも一段と重要になる。多くの語り部団体が集まり、改善点を見つけあうことの意義は大きい。

（仙台支局 村松進）